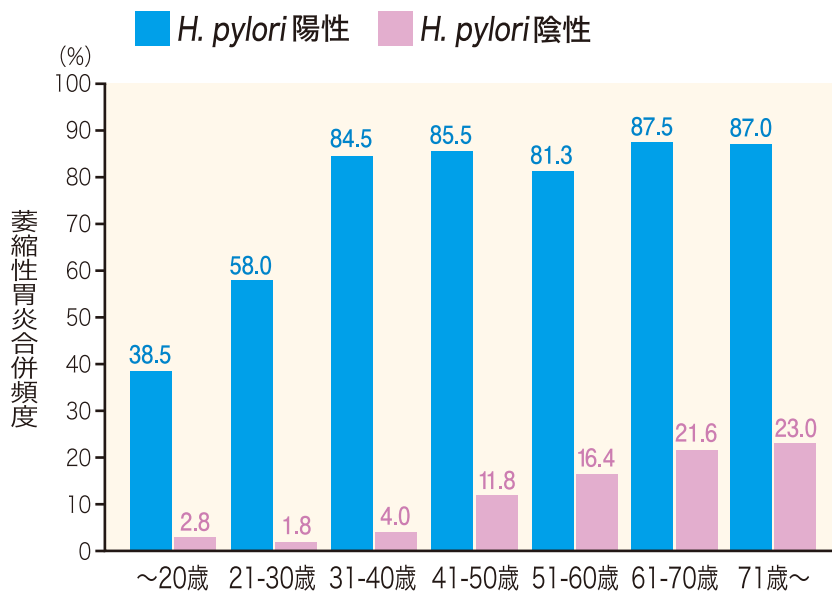


ヘリコバクター・ピロリ除菌療法をおこなうにあたり...

ヘリコバクター・ピロリはヒトの胃内に生息する細菌のひとつであり、萎縮性胃炎の原因となり、胃潰瘍や十二指腸潰瘍を起こしやすくなります。萎縮性胃炎の一部が胃がんに行進していきます。日本人の場合、約3500万人が感染しており、特に50歳以上では約50%の人が感染しています。また、ヘリコバクター・ピロリに感染している30歳以上では80%以上の人が萎縮性胃炎を合併しています。(図)

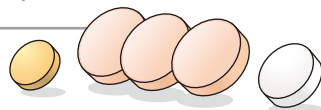
今回の検査で、ヘリコバクター・ピロリが陽性と判定されましたので、同意が得られればヘリコバクター・ピロリの除菌療法を行います。除菌療法の成功により、萎縮性胃炎の約50%が改善することが知られています。除菌の目的は、胃潰瘍や十二指腸潰瘍の発生を抑制し、将来的な胃がんの発生を抑制することです。



Asaka M. et al.: Helicobacter, 6 (4), 294 (2001)

1 除菌療法は、下記の3種類のお薬を同時に1日2回・7日間連続して服薬していただくことが必要です。

ペニシリン系抗生物質：ヘリコバクター・ピロリを殺菌します。
 マクロライド系抗生物質：ヘリコバクター・ピロリを殺菌します。
 プロトンポンプ阻害剤(酸分泌抑制剤)：胃酸を抑え、抗生物質が効きやすい状況を整えます。



※除菌療法がうまくいくように、医師から指示された服薬方法を守るようにしてください。
 ※これらの薬剤に過敏症(アレルギー)の方には除菌療法はできません。

2 除菌療法に用いるお薬の副作用は、約40%です。

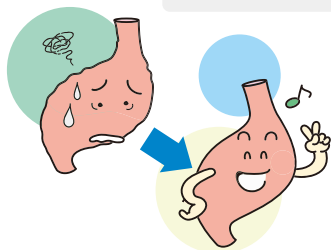
代表的な症状としては以下のようなものがあります。

5%以上	下痢 軟便・水様便
1~5%未満	味覚異常 腹痛 腹部膨満感 便秘 過敏症(じんましん・かゆみ・発疹など)
1%未満	肝機能異常 動悸 血圧上昇 吐き気 口の乾き 腸にガスがたまって腹が張る 放屁(おならがでる) 舌炎 口内炎 口唇炎 胸やけ 腸炎 食道炎 胃部不快感 食欲不振 痔核 頭痛 めまい 熱感 舌のしびれ感 倦怠感 顔のむくみ



これらのうち、過敏症(じんましん・かゆみ・発疹など)や便に血が混じるようなことがあれば、お薬を中止し来院してください。

また、除菌療法が成功した後に、胃酸の分泌が盛んになり、一時的に胃炎や逆流性食道炎(胸やけ)を生じることがあります。



3 除菌療法が成功したかどうか確認するために、
()カ月後に、食事を抜いてご来院ください。

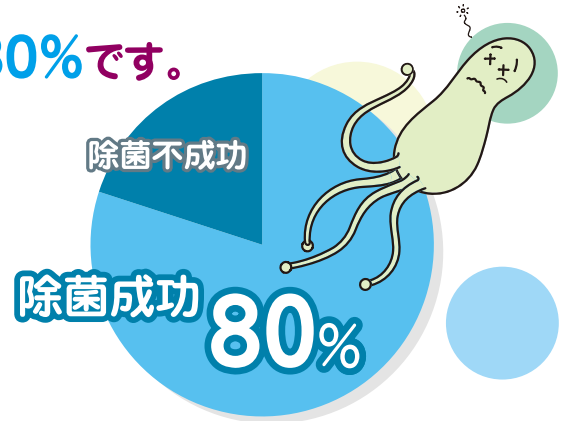
4 正しく服薬された場合の除菌率は、約80%です。

なお、除菌療法に用いる抗生物質が効きにくい方も
おられます。

抗生物質の効きやすさ別の除菌率は、

「効きやすい人の場合」約90%

「効きにくい人の場合」約50%です。



5 除菌成功、不成功の判定は必要です。

あなたの抗生物質の効き具合を、予め予測するために以下の項目にお答えください。
当てはまる項目に✓をつけてください。

抗生物質のアレルギーがある。

慢性呼吸器疾患(慢性気管支炎・肺気腫など)で抗生物質を服薬している。もしくは、
服薬していたことがある。

中耳炎・慢性副鼻腔炎で抗生物質を服薬している。もしくは、服薬していたことがある。

風邪や肺炎などの呼吸器感染症で抗生物質を服薬している。もしくは、服薬していた
ことがある。

※除菌療法中の副作用や治療後の症状の出現などに関する
ご相談・ご質問は、医師・薬剤師にご連絡ください。

施設名